

優目雲萃物誌

欣
189
2

13
189
2



凡士農工商をも夫々の職分家業小國て持用
物以尊も今日と營む事世上一般也然も近世
の巻中不の白紙の種々の尺八又の形と見
此木偶人或の見苦き男女の陰躰を画き君臣
の中少て面と赤もあふ交問く多し是亦
一時の興小乘にしての戯画を以て其職分の道
へ疾付す不の僻古之著述拙く筆者の誤りの
只言語を以て其過ち我外めす唯頼の巻中へ
春戯画の許す本主常小是之歎き愁る古又深
主小代て四方の諸君よ希ひ奉ると志のふ
和漢語軍談貸本所 東都外書目

優曇華物語卷之二

江戸 山東軒主人編

第三段

望月皎二郎雨と避て美女と遇事

作彼網干兵衛が父ハ望月六郎といひ服屋右衛門佐義治公
まはして列に武夫之去る應安元年二月上野國沼田の義服
屋の軍利と久ひ義治公出羽國へおちあふる月ハ乱軍のうらな敵
あつてうらなて花ぐりて討死とすて武勇のり手れと強し
兵衛ハ其刺来ワグク五歳母もかどく身まうて誰養良りも
あつて懐あり人ハ育られて民間よ人となる。つひは國
つりて農夫とあり。本姓とかして網干兵衛と名告漸く
富りが八母追福のる者よ佛と供養す。慈悲あり人ハ三月

うろと忘れどおのれも又人と救ふと好むるごと。梅兵衛日
ころ夢ひひるの今諸國播乱の時に業ト武勇才智あは者ハ
匹夫よりあつて國郡の主とされるとき。況我家ハ累代
武勇のふしれあり。我一代ハ民間よりあつるも。せめて兒
ハ女より出。よと君ハ使させて再家名とあつるさむやと。
これも又日ごろの病氣とて其心まなまなり。熊本を通せ
て武藝文学と学せり。いざよと師と得む。いざよと
れと移る。京よのむせよと師とえらびて。学せんしかりひも。
幼年るれが。これまむま。いざよとね。あつるよと。いざよと
七歳あるり。わかれ。あつるに。いざよと。あつるよと。妻も
郎も其志と。後急は。元服させ。京上りさせんして。かつるよと

え腕の儀式とまうけ。かつるよと。行装と。いざよと。吉日とえ
らびて。門出の祝酒と酌ければ。家内こどりて。悦あつる。時に兵
衛皎二郎と持佛堂に。もるひ。先祖の位牌。状と。まうけ。
一腰の刀と。とり。あつて。いざよと。是ハ先祖傳来の宝刀あり。
彼基経ガ靈劍と。比して。壺斬と。あつて。父六郎殿討死せ
られ。刺か。と。ま。残れ。一腰あり。今。母よ。つら。い。を。か。れ。と
おひて。發足と。ま。い。ま。づ。の。り。よ。く。教。力。よ。必。急。へ。く。と。と。あ。つ。に
あ。ち。と。刀。と。あ。え。け。れ。ば。皎。二。郎。あ。つ。て。ま。き。親。人。の。お。せ。よ。く。い。ま
銘。ど。て。忘。れ。い。ま。す。と。れ。が。い。ま。づ。の。り。よ。く。も。氣。づ。か。い。ま。い。ど
只。よ。く。老。体。と。養。良。て。恙。心。あ。く。お。い。せ。な。ど。つ。ひ。て。親。子。と。も。い。ま
に。い。ま。づ。と。く。お。わ。え。て。涙。さ。し。ら。み。り。り。これ。ど。一。妻。の。つ。れ。い。ま。い。

ら押しひたるべき。彼刀もつひは遺留物とむれり。かくて皎二郎
の家僕一人とぐし。故郷の雲と腦後みかり。客路の霧と眼
前よのぞみて路をいそぐ不どよ。日あそどして京都よつりある
べのかたに寄宿して。よき師ととぐひるに。幸其に武藝の達人と
よまれり。滑良兵庫助とぞとく。京にあり。又文学にままれり。と
官務惟治。ついで周防にうつり。前されば。は友人と師とて。り
つ。文武とぞびり。それ相おさ。彼大を郎ハ。法名と玄海と稱
す。拈華寺に住て。半兼とらり。讀經念佛して。出家の業
とつとめけるが。生得の悪性漸くあつり。れて。氣づりり。り。作業
とまらひ。をむ村くの悪輩等とまらり。り。いまに拈鉢とて
酒肉と食り。又い表彦道がひらり。とまらひ。やもそれば。争論

とひき出して打合ことな。なら。彼幼より。鴉戸の業とぞび
箭前とむらち。槍とつひ。險阻とらり。猛獸と手どり。よまら。のさむ。
玄双の太カ。そ身材。なまをぐれて。ま。大膽不敵の者。されば。悪輩
等も。おそれ。どとつ。こと。あ。昨の坊。ま。異見とらり。り。と。い。ども。
ち。お。悪業。用。よ。ま。ま。ら。けれ。ば。む。こと。と。得。む。網干。が。方。へ。い。と。ん
と。お。り。れ。り。と。彼。を。中。曉。し。ら。る。や。一。夜。寺。と。ぬ。け。い。で。つ。づ。く。も
あ。く。逃。失。け。り。兵。衛。け。り。と。ま。彼。奴。が。悪。性。と。知。れ。ば。お。家。を。せ。し。り。
我。一。生。の。誤。あり。と。て。大。な。後悔。を。玄海。寺。に。あ。る。り。つ。づ。く。二。年。お
奔。り。て。後。い。つ。づ。く。な。あ。る。や。その。時。も。ま。き。と。と。る。ん。か。く。て。時。光。過。す
と。く。月。日。梭。の。如。く。ふ。め。ぐ。り。皎。二。郎。京。都。よ。あ。り。夢。の。向。ま。り
や。三。年。と。経。て。こ。と。二十。歳。み。ぞ。つ。り。り。彼。素。心。思。靈。並。巧。人

よるに あがらぬ 雨の 神祇



あがらぬ 雨の 神祇



又。精力とそりして。後。術とそり。びけれむ。うづらの。洞。み。熟。練。し。詔。う。ふ。り。の。も。う。り。り。り。あ。る。る。又。二。郎。こ。れ。水。を。月。鞍。馬。の。竹。切。と。が。ま。ん。と。て。鈴。ま。ご。さ。に。家。と。出。獨。歩。し。て。わ。と。よ。ま。法。會。の。儀。式。と。も。み。て。後。山。中。の。風。景。と。遊。覧。し。て。權。鬱。結。と。あ。ぐ。さ。り。ぬ。深。山。あ。り。し。の。夢。さ。あ。そ。と。よ。み。ま。ひ。し。淡。の。籠。と。く。み。て。折。か。ら。の。暑。と。忘。れ。ち。う。そ。と。あ。さ。り。の。に。か。ご。ん。る。九。折。と。と。て。汗。あ。衣。と。う。り。い。と。使。き。く。女。鬼。と。殺。し。て。左。義。長。谷。の。恆。例。と。残。し。雨。地。と。伏。し。て。開。伽。井。の。水。の。奇。特。と。あ。り。り。と。と。空。也。の。御。所。壇。ハ。本。堂。の。乾。又。あり。在。衡。が。進。士。間。ハ。佛。殿。の。巽。あり。由。本。の。社。ハ。所。明。神。藥。師。堂。觀。音。院。車。坂。脊。較。石。僧。正。谷。ハ。年。若。九。劍。法。珠。磨。の。所。あり。と。て。石。洞。よ。の。つ。り。り。と。石。面。劍。と。以。て。斬。が。如。く。其。う。ら。は。桃。

石。陰。石。擲。石。足。駄。石。水。入。石。等。の。奇。石。あり。又。二。郎。残。り。あ。く。一。覽。し。し。れ。よ。り。本。社。の。社。ま。あ。う。で。龍。王。の。籠。の。不。と。り。ふ。立。す。と。し。ひ。り。折。し。も。天。娥。あ。か。さ。く。り。の。雷。さ。ろ。ろ。と。凍。雨。さ。し。あ。り。あ。り。れ。れ。が。傍。り。小。社。ま。入。て。雨。や。ど。り。と。時。し。も。あ。て。す。な。る。上。臈。袖。が。さ。あ。り。ひ。裙。が。げ。て。ち。り。あ。り。が。電。曝。く。し。え。雷。崇。と。と。ど。く。れ。か。を。れ。て。あ。と。ち。あ。つ。と。さ。の。社。ま。あ。り。入。を。ら。も。人。目。も。い。ら。と。又。二。郎。が。膝。ま。ひ。し。と。と。つ。さ。て。打。う。り。あ。と。つ。伏。し。り。其。あ。り。り。の。腰。元。と。か。が。さ。女。あ。ん。ち。り。來。て。彼。上。臈。袖。を。ひ。て。あ。て。あ。く。ち。り。居。り。か。そ。あ。ぐ。く。雨。ち。り。雷。と。あ。り。雨。中。み。て。薄。暮。天。ま。り。れ。れ。が。彼。上。臈。や。う。や。く。人。ご。ら。つ。さ。り。あ。や。頭。と。あ。り。又。二。郎。と。あ。り。り。が。あ。ん。ち。り。と。こ。と。ち。



新あらたまあらひてまらうひらう姿すがたばあれんおのれれど年としのころふ
 ひの二ふた八やちころりとかげく。芙蓉ふようの暎まひ揚あ柳やなぎの兒こととちりあてかつの
 眉まゆみどりの髪かみあざああり。名なもそる織オリ物ものの蟬せみの羽はねの中なかうる薄うす
 衣ぎふらさのかむれるも又またさらふひあり。皎せう二に師しこれとらんでこれ
 とも。天津あまつ乙おと女めのあゆるらで人間あんなはあそぶや。龍りゆうの宮みやの乙おと姫ひめの
 海うみ底そこよりいでるあざむむや。誠まことよ人の種たねうらむととかげえてえん
 とびひふらめれ自みづからんもむぎかのひあくちでままらひぬ上かみ臆おそれ
 月つきは秋あきの波なみとたんで。むららに皎せう二に師しとらすらは。皎せう二に師しハ原はらま
 れる浪なみや衣きあらうんとよみ。裸はだか島しまの浪なみ風かぜあらうらう
 小こ倉くらの田い舎やう人ひとあれど。志こころもくく。京みやこみはてて都みやこ人のみやびを
 えあらうひ。驕せう奢やハ好このむとらんも。おのづらうら都みやこの風かぜ俗しやくうらうら

て花はな車ぐるま風かぜ流ながるらうら人ひとよまれつきて又またさら養やし男おとこあられば。あらんが
 る人ひともあらりらるらよとあらららもせど。おんのひい
 洗せん川がわの螢ひるこもらうらんららも。豆まめにつひおもろさこの葉はも
 あらうらうらひららら皎せう二に師しとらすら。えまればあらうらうらあららら洗せん方かた
 とおげえけり。今いまの雷らい鳴なよさぞうららやみあひつらん。かんらら
 へあらうらうらむらと。情なさけありことをに上かみ臆おそれ。げはおらみて
 いづくらのらあらりゆらねど。赤あか蔭かげそといづうらおげえけり。あ
 まりのこいさに。竹たけのりもささきまんど。ささかどらの無む礼らいの罪つみ
 ちりうせむ人といととらうらげよら。皎せう二に師しあらまて。あつき
 ことむ銭をさむらにゆ急いち。一いち樹じゆのかげ一いち河がわのあがれも多おほく
 の縁えんらうまうせば。竹たけんらうらのりんぎ。いちりてあらうらうらく。想おもひ

とつて胸のうちの思ひの波のあやまをうらなれど。さをさぶ
くのくももつひまで。ことごとけり。腰元あ人も皎二郎よ
一礼のぶておもおそろし。雷鳴あてあつ。姫さぬづえか
どせり。おろしや。とつて。来。とえやりて。人まらげ
おし。も六十をりの侍守役の從者と。おろし。か。轎子のせて
ちうま。上臈。むむ。腰かめて。この社家。て。雨やどり
させ。まう。さんと。存。や。う。や。て。づ。う。ま。う。あ。ひ。ゆ。え。と
つ。こと。う。ま。ひ。ぬ。日。う。雷。と。ま。う。ひ。あ。ふ。ふ。く。氣。づ。ひ
ゆ。り。ゆ。ら。の。あ。の。や。い。か。う。腰。元。も。皎。二。郎。と。指
さ。て。は。沙。方。と。か。ふ。雨。中。う。て。姫。さ。ぬ。も。む。づ。う。か。む。せ。り。あ。や。
ゆ。り。病。も。さ。り。む。と。氣。づ。ひ。あ。あ。る。と。この。ゆ。ぐ。ん。と。ら。と

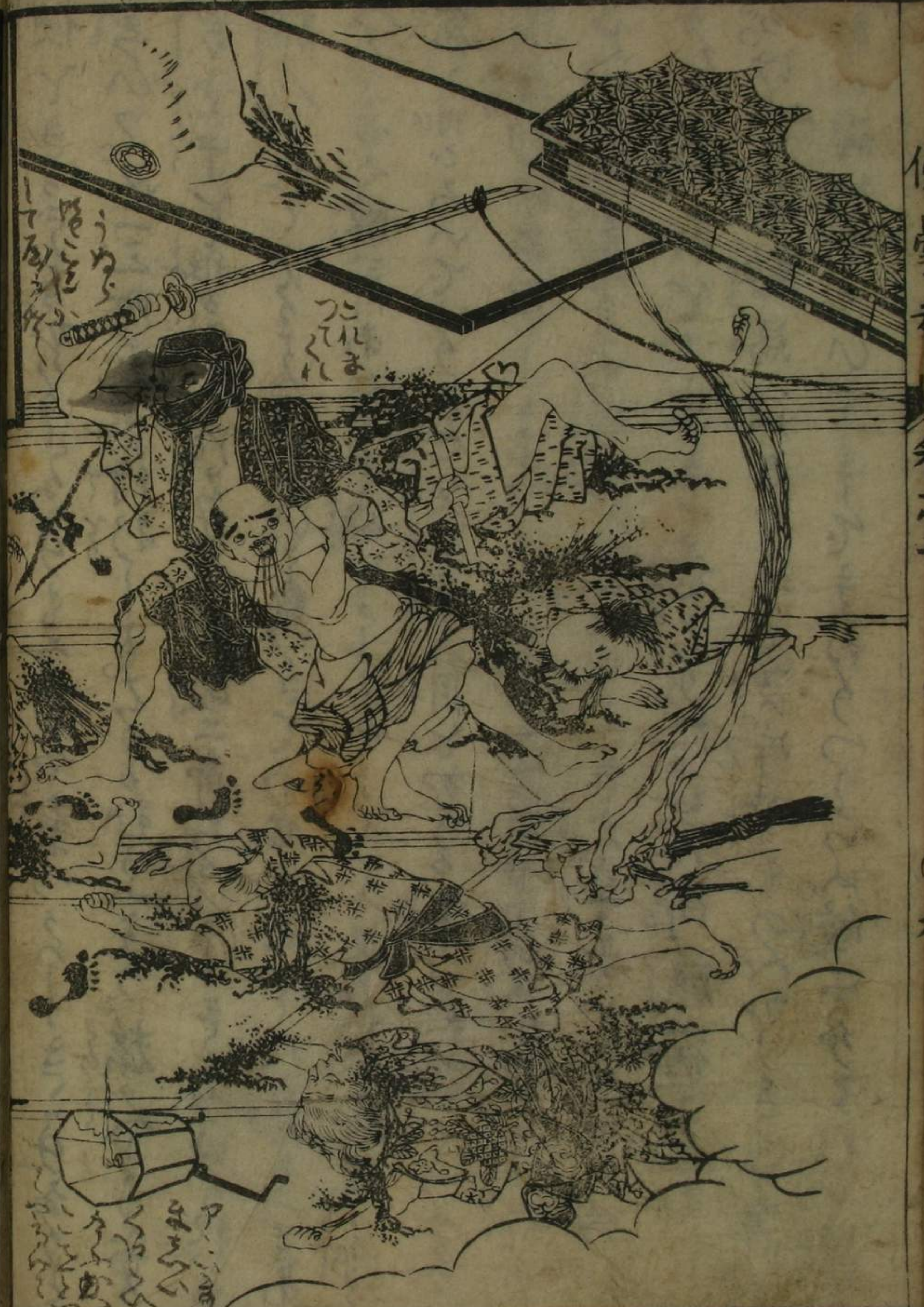
つを。老人。うらえて。轎子のうらうら。指笈の單衣とうりて
まわ。上臈半部のかげ。入。て。ぬ。れ。衣。ま。う。て。ま。う。り。け。れ。
老人の皎二郎はあつ。礼。の。轎子。と。う。ら。う。ま。を。ま。て。上臈。む
くひ。も。暮。み。ら。け。れ。い。ま。ま。ま。と。ま。や。と。う。り。と。ゆ。え。と
れて。上臈。の。う。ら。か。げ。よ。皎。二。郎。が。方。と。え。や。り。つ。と。ま。ひ。て。こ
う。れ。が。ま。ま。と。腰。元。も。さ。う。り。て。轎子。に。と。と。け。の。せ。足。を。や。ま。走
り。行。ぬ。皎。二。郎。も。う。ら。ぬ。と。ま。依。る。ま。ま。と。の。び。う。り。
か。げ。の。つ。ん。え。ざ。り。ま。ま。と。ま。う。り。て。唯。惘。然。と。て。醉。人。の。こ。と。
と。め。息。つ。ま。て。居。る。が。か。と。う。と。つ。れ。が。さ。あ。あ。あ。あ。あ。
これ。か。の。上臈。の。忘。れ。お。ろ。し。あ。あ。あ。あ。あ。追。う。け。て。あ。あ。
ん。あ。あ。ん。や。あ。そ。う。い。う。と。ら。て。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。あ。

きの地みほくまのゆき筆めて

まなれるあひまの川のそとをさそくをむとびれ神はま
らふ吉弁とあまもも又ふあしがの人のもやふれけんお
のれを。うちもあられね。せめてのおりけと懐みして海四方
と顧れば暑あいにさる本草ども雨とおびてせくら。夕虹東
よむきて紅絹のごとく。涼風衣とさり。鐘声耳にひびきて。
ちや暮ふるゆきと。皎二部歩路して家よかんそとそぐい
くそみゆて二二町たぐりさける。本どもあらげとさう
ちれ鴉あるとむらがりて。哇くとみく。皎二部ゆれとてお
ひける。今諸鳥ねぐらとれむらころるに彼鴉どもね
ぐらもつくと。かみーげあふらあやむべ。まがくく古郷の

便ときらざるが。からうらうらもさるこや。氣づき一まのあつと
思ひ。又二二町をぞ行おし。も。なるらむふよう。旅人とてあ
男空中と飛ぶとて。これら。ま皎二部ちらぐと。みゆれたの
旅人それとらるよう地みひびく。つとてあせもま。に息もつとあ
つね。あ之皎二部あや。眼とさめて。うらうら。それが。それ古郷の
家よ。むらういで。つとせ。父兵衛の目と。かぐる者。それ。い。つとら
て。あ。ゆき。あ。い。も。が。う。く。こ。み。あ。つ。つ。や。と。う。か。の。男。汗。と。の
ご。い。と。あ。息。つ。と。て。は。な。お。家。に。申。し。き。大。事。あり。し。ゆ。え。に。涉。む
う。ひ。の。み。表。と。目。つ。ぎ。と。走。上。り。た。ち。れ。旅。宿。ま。あ。り。し
が。け。か。も。鞍。馬。へ。か。ん。せ。し。と。波。片。時。も。の。べ。が。い。と。い。る。れ。が
かん。跡。と。ま。い。こ。ま。で。ま。あ。り。つ。と。ら。ん。皎。二。部。これ。を。い。て

夏 巻六 終



伊勢物語 卷之六

お尋る。大事とん行りぞ。と。皆。い。う。あ。く。と。氣。を。せ
きて。催。せ。ば。か。の。男。唾。を。の。こ。み。て。つ。ふ。や。う。當。月。某。の。夜
子。の。時。る。頃。沖。主。人。沙。夫。婦。の。声。を。盗。人。の。つ。ら。と。ら。ど。お
き。み。く。と。お。ん。と。と。く。よ。ま。ひ。お。よ。に。驚。て。沖。家。僕。を。く。目
と。醒。し。か。の。く。得。物。と。お。つ。と。り。松。と。り。て。走。り。出。を。こ。ら。つ。て
れ。ば。覆。面。頭。巾。に。お。り。て。と。つ。み。さ。く。せ。者。鮮。血。淋。く。刀。を
さ。げ。て。黒。闇。裏。に。お。り。て。と。ま。く。と。や。つ。の。ご。と。と。と。よ。が。ひ。つ。を。ら
く。と。と。り。か。と。み。て。命。と。際。み。た。く。い。ろ。が。の。賊。物。か。猛。長。劍
と。う。ら。う。り。て。飛。鳥。の。ご。と。と。と。ら。さ。け。れ。ば。敵。と。り。こ。と。あ。こ。り
ど。沖。家。僕。の。う。ち。即。死。の。者。五。人。深。手。と。お。ひ。一。者。三。人。残。る
者。も。カ。ら。て。志。ゆ。り。み。と。る。む。あ。か。の。賊。後。口。より。走。り。か。築。牆。と

の。り。越。て。逃。去。ん。と。し。つ。つ。を。と。れ。ぐ。か。れ。じ。これ。と。追。て。築
牆。の。上。に。あ。る。賊。の。脚。と。雨。人。と。て。そ。う。人。む。き。あ。ろ。さん。と。は。附。み。ま。じ
て。賊。の。頭。巾。樹。木。の。枝。よ。り。さ。か。り。て。あ。ら。う。な。つ。え。ぬ。月。の
光。り。み。よ。く。え。れ。ば。豈。と。う。ん。や。か。の。賊。の。ま。が。い。づ。も。あ。ら。ぬ。玄
海。あり。あ。ら。ぬ。只。あ。ら。れ。つ。が。か。か。と。ま。り。め。て。む。さ。お。ろ。さん。と
つ。る。に。彼。奴。樹。木。よ。り。付。一。脚。と。あ。ひ。て。あ。ら。ぬ。と。地。上。に。踢。倒。つ
ひ。ま。牆。と。を。ご。り。越。て。逃。去。ぬ。雨。人。の。者。は。氣。絶。し。て。ま。ま。と。く。死。入
け。ら。が。や。く。命。と。ま。ら。と。し。玄。海。あり。こ。を。つ。え。と。け。ら。る。の。こ
少。の。幸。ん。つ。ま。き。て。あ。ひ。て。と。か。け。さ。れ。も。行。方。あ。れ。ど。嗚。呼
哀。哉。御。父。の。手。槍。と。り。ら。う。が。ら。土。庫。の。前。に。斬。れ。て。死
し。ぬ。沖。母。人。も。か。ら。と。不。ま。こ。う。さ。れ。ま。ひ。ぬ。沖。家。内。と

あつこあつこに塵をうりのおもいうせぞ彼奴常所家の様
 とりかゝれば。餘の知は目とかけども只土庫よまのびつん
 としつるを所主人お目とつけられ。お音とまきつけてまよ
 むい声とてあひい。ゆゑに彼奴来ととげど。だもつに斬
 まうせしあしん。所母人もしん声とて。ころきれあひつん
 翌日もある四方にひつけとあり。日向の嘉久藤口球磨川の
 松路山路の嶮岨みつらまきで。勢の追人となり。善く
 づりければ。いづくよりうのぐれおけん行方おれど。おりいれ彼奴
 幼より獨戸の業とあり。いさ山中の案内と知りされ。人の
 去るは徑と逃去しとおぢえい。まやく所飯國ありて来と
 かゝいふ人と。息もつとあんどおるみぞ。飯二郎これとせむいと

一。天に號地は哭て涙血とかけらるが。やうやくかとまら
 りてつまず。彼畜生え来悪性めてお家ととげど。拈華と
 出奔してづくおありや。其後の事もまらざりし。親人の書
 簡あてつぎ。おろくろり災害とまさん者とみおりのざりま。再
 生の父母救命の恩人と殺害ととつて天魔波旬とつとつと
 とくご。誠小希代の悪業哉とひ彼天路ありてとら。地
 門ありてかくれととも。我速は探かし。臊子にきとみ肉将醬とな
 して父母の怨念と慰をべしとて。むら。空とみるみて牙と
 あし。牙とつらかりて。いさりるが。されかゝれ所飯國といとまま
 といさすて。ついに旅宿みつらぬ。とて旅のよもひを
 りとて。其夜とら。夜ぞり。早馬とて。古郷とら



伊勢物語

て只ただひひりの養女あり。名と弓児ゆまことつひて。ことごとく十六歳むねをい
 たりり。容貌かたちなまよとくひあり。巫女ふま廟やしろの花の夢ゆめ裏うらのそむりか
 ごとく。昭君せうくん村むらの柳やなぎも雨外あまのちみ疎おろそかに似にたり。まうのそありとど。公こう之
 ややくくのそけししば。歎なげのそ系けい竹たけのそのみも暗くらくくむ。名なかき花はなむむとび
 ののくくひひまを曉あけむむとららよよここままし。前まへの日本にっぽん祇ぎままて雨あめややどどりりせせ上じやう臈らう
 乃の是このははままありけり。又また彼かのるる役やくの老人らうじんのの素す海かい衛ゑ守しゅととつつひひて。譜ふ代だいの
 家いえ士しあり。弓ゆまこ兒こ都みやこ一ひと見みののちち京みやこよりよりとと衛ゑ守しゅ老らう實じつありて相あひか
 れれるる者ものなれれば。ええくくりりてつつままををひひののびびりりありけり。ささららかかどどにに弓
 児このの權けん京みやこ都みやこにに逗留とゆうりゅうして。神社しんじ佛ぶつ閣かく名な所じよ古こ跡せきと遊ゆう覧らんし。おおびびをを
 日ひ教きやうつつまりまりぬぬれれば。んんやや古こ郷きやうおおつつらんらんして。つつひひぬぬ京みやこ都みやことと祭まつり足あしし。
 近あづにに浴ゆみみささししつつてて。小こ野ののの病やまととささけけりり附つああむむのの男おとこ女めづららむむれ

て。ののととささししつつてて。衛ゑ守しゅなれれととえてつつぶぶりり。行い事じあ
 りて彼かの者ものどもどもいいそそががくくくくかかととおお走しりりゆゆくくややとと人ひとみみ同どうけりり。あ
 答こたてつつひひりりのの近きん年ねん妻よめここどどりりてその徳とくととかり。諸しよ人じん渴かつ仰やうの思しひ
 とるとるを。播は州しゆ書しよ寫しや山さんの金きん鈴れい道だう人じんおおひひううけけむむこのこのどどろろ當たう國こくまま
 りあり。當たう所しよ不ふ知ち也や。河かのの文ぶん珠しゆ白はく椎しゆままししつつ寺てらおお止と病やまあり。ひ
 けり。鳥と籠この山さんととええむむひ。風水ふうすい能よ勝かつ地ち清せい淨じやうの靈れい山さんあり。とて
 けり。も彼かの山さんは入い定ぢやうし。入い定ぢやう狐こととみみなるなるあり。そのゆゆええににえ
 るる群ぐん集しゆしてかの山さんみみつつり。入い定ぢやう狐こととみみなるなるあり。そのゆゆええににえ
 るる也や。げげ疾しやく中ちゆうの者ものも。家いへ肉にくあり。ささりりかかととままゆゆさて。ひひとと
 も強つよむむるる者ものあり。ととかり。弓ゆまこ兒こ轎きやう子のこららふふありてける。とと衛
 守しゅににひひけるる。金きん鈴れいをを人ひとととややらんんのの活かつ佛ぶつををかかららままををりりとと

のむらとまきおびぬ。くも幸の内は當所と過てけり。を
きく。仏縁のふるまはれあはれや。妾もかよゆさて結縁のあは
定と拜と。男ありとつふあど。衛守おきて。うらりあはれをあら
はかしもをやく。清依し。竹と。轎ふといそがせゆさ。ふとかく
うとよつうて。轎ふと。林藤ふおき。歩行してふまのり。その前よつう
てつるふ。たうさつ。中き老若男女蟻のごとく。いつどい降のごとく
むらがり。おせまを。居る。びて。こらひ。あらか。ひ。あま。あひ
らり。弓。衛守に。とけられて。腰を。多。り。諸人の。茶よ
そみ出て。これと。つる。に。本が。れて。鶴の。林の。こら。さ。松。林の
り。に。ひとり。の。假家。と。つる。竹。と。ひ。て。花。と。茅。と。ひ。て。あ。ひ
と。あ。ら。き。布。の。幕。と。つる。さ。つ。ら。ら。に。さ。く。床。と。ま。う。け。て。う。

に新薦とまき。白木の經厨とまきて。一兩軸の經とのせつ。
まてのさぬ。甚清浄の道人とみ。端座して。かり。まを。其。姿
と。え。を。り。ふ。童。顔。鶴。髪。自然の。妙。音。ある。雪。と。欺。鬚。あ。ぐ。と
れて。膝。と。ま。ぐ。身。ふ。白。紙。の。衣。と。ま。紙。の。袈。紗。衣。と。かけ
て。手。に。手。爐。と。つる。あ。ひ。香。氣。馥。々。と。て。外。頭。旃。檀。の。不
り。風。よ。ま。ま。ひ。て。空。よ。の。り。兜。率。天。宮。あ。も。つ。ら。う。と。う。と。目
は。わ。つ。り。目。よ。を。く。ひ。き。ま。ひ。口。の。う。ら。み。何。や。ら。ん。さ。ま。あ。を
お。び。え。て。辰。月。の。う。と。と。つ。る。の。と。あり。その。左。右。よ。白。椎。寺。の
和。尚。徒。身。と。つ。れて。ま。ま。ら。び。中。音。よ。讀。經。を。系。指。の。法。人。の
と。さ。に。清。と。か。と。て。念。珠。を。り。あ。じ。異。口。同。音。よ。念。佛。と。ま。ま
る。声。い。も。か。あ。く。け。ふ。これ。世。尊。涅。槃。の。時。よ。あ。ひ。天。人。大。會



御祭

御祭
卷之二

小野の宿よやどりりるが。それよりるるといそぎて。かどあく右郷
まうりつさねは後もた人入定の時にあつらひせめて塚孤とままん
とてかのふまのりり者か不し。息づきの竹も耳とつけてまけけ。松の音
かそらきこえて。百余日とえど。びふこれ丸人よあつらるるありと
てまもく。尊敬と兩りてあづりる日。松の音ことりゆくそみて
きこえけるよう。これと近江の雨松とて。のらつくまても奇おのこに
つひ侍人けりとおん。さうかどに弓唄の。松の音ことりゆくそみて
家内ちろそぶるのかぎりあり。け後のに。あつらひてあつらるるそむきこしる
一。叔父時光速よりゆくゆきて一夢の回。二年と過こし。永亨
十年ふぞつらりる。このころ。松倉の管領。足利左兵衛督持氏公が
ておろりるが。初京都將軍義持公持氏公とて。以て家叔目とせんころが

一ありしが果どして。夢トあひ義教公將軍は補せらるるまかよ
びて持氏公喜む。京都お叔の心あり。執權憲實屢これと
諫も聴む。りりる其企ありるが。びりつとて持氏公彼渥美
左門が豪農なり。ことをまひる。京都は攻のびる。兵糧米と仕
おろるるむ。密は使者とて命で。いれが。渥美左門とよる
こび。数代民間あうぐりれ。先祖の家名再つちとらけ時ありと
速ようけかひまらして。密使とかりりてありて。松倉ふくし。おの
れ管領と拜謁せん。吉日とえらびて。松倉のよそひととの進御
の礼物とて。ありの。絹千匹。中折紙三千束。瀬戸の磁器。降谷
の釣柿のとこひ。當國の名産と調て。五合の長櫃。ふとせり。五合の
擔子につくりて。そくよりあつら。脚夫は挑せ。十余人の從者と領し

信濃志紀

おごそらよ用^{よう}意^いしてまづ信^ま濃^のどちのま^まま^ま馬^{うま}とえ^えて
てお^うや^の深^の倉^{ぐら}の^のを^をみて^をせ^をり^りぬ^ぬれ^れ言^まふ^ふ似^にて^に凶^まと^とま^まね^ねく^くの^のは
あり^り。後^{のち}み^みぞ^ぞお^おひ^ひま^まれ^れり^り。一^一

馬廐々志紀保無素里

